Ikiiki Maebashi Jin
いきいきまえばしー人

自転車の魅力を伝えたい

プロロードレーサー
狩野　智也さん・42歳

ことしから地元の自転車ロードレースチームの群馬グリフィン・レーシングチームでキャプテンを務めるトッププロ選手。国内の日本人ロードレースプロ選手では最年長だ。

自転車競技を始めたのは小5の時。自身の病気が影響している。

「ひどい喘息があって。体質改善のために、医師から自転車を勧められたんです。そこで、親が見つけてくれた、広報まえばしに掲載されていた自転車教室に参加したのが、競技を始めたきっかけです」

中学校に入学してからも部活動をしながら自転車競技を続け、高校では部活動として自転車競技に取り組んだ。

「自転車の魅力は何といっても自分の力で進むということ。そして、その時のスピード感はとても気持ちいいですよ。下り坂では最高時速は100キロメートルを超えます」

近年、自転車競技のイベントが増えたことは、素直に嬉しいという。

「ヒルクライムやシクロクロス、ブルベなど、形は違っても自転車のイベントに参加する人が増えるのは嬉しいですね。私たちプロへの注目も集まるでしょうし」

今後は自転車競技人口を増やすことにさらに力を入れたいという狩野さん。前橋の地からチームとともに、自転車の魅力を発信してほしい。

アーツ前橋 ARTS MAEBASHI Vol.14

私とアーツ前橋

この連載では、市民に寄稿してもらい、さまざまな角度でアーツ前橋を紹介します。第14回は、群馬大大学院2年の宮川紗織さんです。

新たな出会いを楽しんで

宮川　紗織さん・25歳

私にとってアーツ前橋とは出会いの場です。アーティストやサポーター、ワークショップの参加者、作品、何か面白いことが起こる空間など、挙げたらきりがありません。

開館前から今まで、ワークショップなどのお手伝いをとおして、アーツ前橋には出会いが詰まっているな、と実感。昔は付き合いの短い人とはほとんどコミュニケーションが取れませんでしたが、それも克服しつつあります。新しい発見をする楽しさや面白さを感じることができる場所の一つがアーツ前橋です。

今は11月15日に貸し切りで上毛電鉄に乗って「アートとフードな秋」を体感してもらうイベントを企画しています。これは、文化庁の支援の下で群馬大とアーツ前橋が連携し、アートマネジメントの人材育成を図る講座の一つ。私が担当するコースでは食とアートをとおして地域の魅力を伝え、人と人をつなげることを実践します。美術館に行きにくい人でも、電車に揺られておいしいものを味わうことなら参加しやすいと思います。

参加しないと何も分かりません。一歩踏み出せば新しい世界が開けるかも。皆さんのご乗車、お待ちしています。

問い合わせは
アーツ前橋　☎027―230―1144

クローズアップ CLOSE UP

自然の中を力走

8月30日に、赤城山大沼湖畔であかぎ大沼・白樺マラソンを開催しました。全5種目22部門の2,000人の出走者のうち約97%が完走。大会当日はあいにくの雨でしたが、それぞれの目標に向かい、天気の悪さを感じさせない力強い走りでゴールを目指しました。

前橋の未来を共に考える

9月5日に市内ホテルで前橋創生シンポジウムが開催されました。藻谷浩介さんの講演の後、まちづくりのキーパーソンがパネルディスカッション。人口減少と超高齢化という課題を乗り越えるため、どのようなまちづくりを進めていけばよいか考えを深めました。

詩集「雁の世」が朔太郎賞に

8月31日に前橋文学館で、優れた詩集を表彰する萩原朔太郎賞の選考会を開催。川田絢音さんの「雁（がん）の世」が受賞しました。川田さんは「今このひびきを受けて、できることなら、歩んでいきたいと思います」とコメント。贈呈式は10月31日㈯に同館で行います。